

教育研究業績書

2017年10月20日

所属：食物栄養学科

資格：教授

氏名：林 宏一

研究分野	研究内容のキーワード
公衆栄養学, 公衆衛生学, 地域保健学	予防栄養, 環境と栄養問題, 地域栄養改善活動
学位	最終学歴
博士(医学)	東京農業大学 農学部 栄養学科 卒業

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
1. 公衆栄養学フィールドワーク理解のためのスライド	2007年04月	公衆栄養学において実施されるフィールドワークの進め方、留意点等をわかりやすく解説したスライドを作成した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 管理栄養士		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 公衆栄養学	共	2015年3月31日発行	南江堂	管理栄養士国家試験改定ガイドラインに対応した管理栄養士養成課程学生用のテキストである。その中の障害者の公衆栄養プログラム、生活習慣病ハイリスク集団の公衆栄養プログラムを分担執筆した。古野純典, 伊達ちぐさ, 吉池信男, 林 宏一, 他
2. 現場で役立つ公衆栄養学実習	共	2015年03月31日発行	同文書院	公衆栄養活動の中心となる行政栄養士として活躍できる管理栄養士を養成するための実務を中心に構成されたテキストである。公衆栄養アセスメント中の「情報の処理と分析」部分を担当した。橋本加代, 嶋津裕子, 木林悦子, 林 宏一, 大畑仁美, 千歳万里, 伊藤裕美
3. 公衆栄養学	共	2015年01月30日五訂版発行	建帛社	管理栄養士国家試験改定ガイドラインに対応した管理栄養士養成課程学生用のテキストである。その中の公衆栄養マネジメントについて、アセスメントから評価までを分担執筆した。八倉巻和子, 井上浩一, 井上栄, 笠原賀子, 小林実夏, 佐々木敏, 鈴木和彦, 須藤紀子, 林 宏一, 本田榮子
4. 臨地実習ガイドブック	共	2011年02月	建帛社	管理栄養士課程・栄養士課程における必修科目である臨地実習(校外実習)を受講するにあたり必要となる知識、技術、マナー等について解説したテキストである。この中で、管理栄養士課程(公衆栄養学)の臨地実習である保健所、市町村保健センター等行政栄養士業務に関する部分、栄養業務に関連する法規の部分について、担当執筆した。前田佳予子, 高岸和子, 林 宏一, 谷野永和, 岸本三香子
5. 公衆栄養学	共	2005年04月	建帛社	公衆栄養の歴史から最新の公衆栄養学の知見、公衆栄養プログラム、各種関係資料等を紹介した書籍である。その中の公衆栄養活動(公衆栄養プログラム計画、公衆栄養プログラムの目標設定、公衆栄養プログラムの実施、公衆栄養プログラムの評価)を担当執筆した。八倉巻和子, 井上浩一, 井上栄, 笠原賀子, 佐々木敏, 鈴木和彦, 須藤紀子, 林 宏一

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
6. 新公衆栄養学	共	2003年05月	第一出版	公衆栄養の歴史から最新の公衆栄養学の知見、実際に行われているプログラム、各種関係資料等を紹介した書籍である。その中の公衆栄養プログラム計画、公衆栄養プログラムの目標設定、公衆栄養プログラムの実施、公衆栄養プログラムの評価を担当執筆した。 藤沢良知, 原 正俊, 芦川修武, 中原澄男, 辻悦子, 大谷八峯, 藤澤由美子, 小林良子, 原美智子, 中村丁次, 林 宏二, 大江秀夫, 武見ゆかり
2 学位論文				
1. 珪肺症における血清過酸化脂質測定意義に関する研究	単	1994年12月	金沢大学	塵肺症患者の予後改善対策を探る目的で、珪肺症患者を対象にX線による塵肺病型分類と血清中過酸化脂質濃度との関連性を研究した。その結果、塵肺の重症度と血清中過酸化脂質濃度上昇との間に、身体状況や喫煙、食習慣等の関連要因をコントロールした上でも有意な相関関係があることを発見し、完治が難しく、進行を遅らせるしか治療方策のない塵肺症患者の予後改善に過酸化脂質抑制の観点から貢献した。
3 学術論文				
1. Epidemiological study on the involvements of environmental factors and allergy in child mental health using the Autism Screening Questionnaire	共	2013年01月	Research in Autism Spectrum Disorders 2013, Jan;7(1):32-140	本研究では自閉症傾向にある児の生活環境因子およびアレルギー疾患との関連を明らかにし、自閉症傾向児の早期発見のための指標を構築する目的で3?5歳の幼児およびその保護者を対象に自記式記表調査を行った。その結果自閉症得点の高い群は、性別、出生順位等の因子の共存下で鼻アレルギーを有する事が分かった。また鼻アレルギーを有する児は自閉症児の障害の特徴の1つである「独特の興味・こだわり行動」に関連が多く見られた。 Shibata A, Hitomi Y, Kambayashi Y, Hibino Y, Yamazaki M, Mitoma J, Asakura H, Hayashi K, Otaki N, Sagara T, Nakamura H. 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
2. ビタミンC摂取量と食品群別摂取量との関係	共	2012年03月	金城大学紀要12号23?34頁	生活習慣病予防を担う管理栄養士・栄養士に、地域住民が日常摂取している栄養素の由来食品群の情報を提供し、栄養改善・指導活動に役立ててもらうため調査を実施した。その結果、研究対象とした地域では、ビタミンCの供給源として男女ともに果物類、緑黄色野菜が重要であることが明らかとなった。さらに男性では、年齢もビタミンC摂取と供給食品群の関係に関連していることが明らかとなった。 岡田茂, 林 宏二, 柴田亜樹, 築山依果 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
3. 女性特有の疾患および癌に対する薬膳の効能・効果の評価ならびに桂皮を用いた薬膳からの主成分の確認	共	2012年02月	ノートルダム清心女子大学紀要生活経営学・児童学・食品栄養学編36巻14?22頁	女性特有の健康上の悩みを改善することが期待できる4種の疾患（月経痛、便秘、美肌、癌）に有効と思われる薬膳の効能効果に対する検討を行った。その結果、月経痛の改善を目的として作成した薬膳以外の3種の疾患に対する薬膳のレーダーグラフは、その予防・改善効果があるとされる漢方薬のものに近似することが確認された。 大西孝司, 逸見真理子, 井上里加子, 村上沙緒莉, 高澤卓子, 林 宏二, 野口 衛 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
4. いわゆる「健康食品」に対する意識調査（Ⅲ）—人間ドック受診者における調査結果について—	共	2012年02月	ノートルダム清心女子大学紀要生活経営学・児童学・食品栄養学編36巻14?22頁	市販健康食品に対する意識が実際の生活習慣や保健行動に反映されているか否かを探ることを目的とし、人間ドック受診者に対し自計式調査を実施した。その結果、独居生活者の方が健康食品に対する関心が高いこと、健康の維持増進、疲労回復のため利用するという者が多いこと等が明らかとなった。 大西孝司, 逸見真理子, 逸見佐恵子, 高澤卓子, 村上沙緒莉, 林 宏二, 岡田茂 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
5. 鉄摂取量と食品群別摂取量との関係	共	2011年03月	金城大学紀要11号23?34頁	地域住民の鉄摂取量に影響を及ぼす食品群について探索する目的で栄養素等摂取量、食品摂取状況調査を行った。その結果、対象地域では肉類、野菜類からの摂取が男女ともに多いことが明らかとなった。 岡田茂, 林 宏二, 柴田亜樹, 築山依果 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
6. いわゆる「健康食品」に対する意識調査（Ⅰ）—成人男女の結果について—	共	2010年03月	ノートルダム清心女子大学紀要生活経営学・児童学・食品栄養学編34巻12-30頁	市販健康食品の安全確保と利用者への啓発を図るため、成人男女を対象に健康食品に関する意識、利用実態、保健行動を調査した。その結果、年齢が進むにつれ健康食品への関心度が高まること等が明らかとなった。 大西孝司, 逸見真理子, 林 宏二, 林 千尋, 岡田 茂 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
7. カルシウム摂取量と食品群別摂取量との関係	共	2010年03月	金城大学紀要10号17?28頁	地域住民のカルシウム摂取量に影響を及ぼす食品群について探索する目的で栄養素摂取量、食品摂取状

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
8. 薬膳の効能効果について-東洋医学的観点からの評価-	共	2010年02月	ノートルダム清心女子 大学紀要生活経営学・ 児童学・食品栄養学編3 4巻14?22頁	<p>況調査を行った。その結果、対象地域では男女ともに他地域に比べて魚介類からのカルシウム摂取が多いことが明らかとなった。 岡田 茂, 林 宏二, 柴田亜樹, 築山依果 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。</p> <p>メタボリックシンドロームの予防、改善効果が期待できる薬膳を作成し、東洋医学的観点から漢方薬の効能効果を評価することができるレーダーチャートを作成した。レーダーチャートを用いて既存の漢方薬と薬膳の効能効果を比較したところ、高血圧、脂質異常症の予防、改善を目的として作成した薬膳において、効能が期待されることが明らかとなった。 大西孝司, 逸見真理子, 林 宏二, 林 千尋, 野口 衛 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。</p>
9. フグおよびフグ加工品中のテロドトキシンの分析	共	2009年02月	ノートルダム清心女子 大学紀要生活経営学・ 児童学・食品栄養学編3 3巻107?115頁	<p>高速液体クロマトグラフィーを用いたテロドトキシンの化学的定量試験を行った。その結果、公定法として採用されているマウス毒性試験法に匹敵する良好な結果が得られた。さらにサンプルとしたフグ卵巣糖漬の製造工程におけるテロドトキシンの消長を観察し、食品加工工程におけるフグ毒消失メカニズム解明の一端が明らかとなった。 大西孝司, 林 宏二, 柴田亜樹 本人担当部分はサンプル収集およびデータ解析。</p>
10. 炭水化物摂取と食品群別摂取量の関係	共	2008年03月	金城大学紀要8号85?93 頁	<p>地域住民の炭水化物摂取量に影響を及ぼす食品群について探索する目的で栄養素摂取量、食品摂取状況調査を行った。その結果、対象地域では男女ともに米類からの摂取が多いことが明らかとなった。 岡田 茂, 林 宏二, 柴田亜樹, 築山依果 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。</p>
11. 脂質摂取量と食品群別摂取量の関係	共	2007年03月	金城大学紀要7号13?25 頁	<p>地域住民の脂質摂取量に影響を及ぼす食品群について探索する目的で栄養素等摂取量、食品摂取状況調査を行った。脂質摂取量を従属変数、食品群を説明変数とし重回帰分析を行った。その結果、男女で脂質摂取量に影響を与えている食品群に差があることが明らかとなった。 岡田 茂, 林 宏二, 築山依果 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。</p>
12. 保育園児における食教育の効果	共	2007年02月	ノートルダム清心女子 大学紀要生活経営学・ 児童学・食品栄養学編3 1巻	<p>幼児期からの生活習慣病予防対策として、公立保育園児とその保護者を対象に食育を実施し、その効果を評価した論文である。食育の内容は園児に対する集団栄養教育、個別栄養教育および保護者に対する「家庭だより」での教育である。その結果、食育終了後の食習慣に、教育群において短期効果が認められた。 築山依果, 林 宏二, 武田安子 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。</p>
13. たんぱく質摂取量と食品群別摂取量の関係	共	2006年03月	金城大学紀要6号13?25 頁	<p>地域住民のたんぱく質摂取量に影響を及ぼす食品群について探索する目的で栄養素等摂取量、食品摂取状況調査を行った。重回帰分析の結果、対象地域特有と思われる魚介類を中心としたたんぱく質摂取の実態が明らかとなった。 岡田 茂, 林 宏二, 築山依果 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。</p>
14. 幼児期における食教育の実施とその効果	共	2006年02月	ノートルダム清心女子 大学紀要生活経営学・ 児童学・食品栄養学編3 0巻30?38頁	<p>幼児期からの生活習慣病予防対策として、保育園児およびその保護者を対象として食育を実施し、その効果を検討した論文である。幼児自身が緑色、赤色、黄色の食品群からバランスよく食品を選択することが出来るか否かを調べた。その結果、教育の効果は食育実施後の幼児と保護者とのかわりの中で強化されることが示唆された。 築山依果, 林 宏二, 嶺野安子, 重谷秋穂 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。</p>
15. エネルギー摂取量と食品群別摂取量の関係	共	2005年03月	金城大学紀要5号13?25 頁	<p>地域住民のエネルギー摂取量に影響を及ぼす食品群について探索する目的で栄養素等摂取量、食品摂取状況調査を行った。その結果、男性での特徴はアルコール摂取、女性での特徴は菓子類といった男女間でエネルギー摂取量に影響を与えている食品群に差が認められることが明らかとなった。 岡田 茂, 林 宏二, 瀧 依果 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。</p>
16. 幼児期における食環境からの地域支援のあり方	共	2005年02月	ノートルダム清心女子 大学紀要生活経営学・ 児童学・食品栄養学編2 9巻14?22頁	<p>市町村保健センターを中心に行われている地域の子どもたちに対する支援活動と地域住民の支援要望との関係を探る目的で、公立保育園通園児保護者を対象に調査研究を行った。その結果、日常生活上の身近な問題については保育園、健康上の問題については保健所、市町村保健センターからの支援に期待する保護者が多いことが明らかとなった。 瀧 依果, 林 宏二, 畦地比佐子, 嶺野安子</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
17. 大学生の生活習慣病に対するイメージについて	共	2004年03月	金城大学短期大学部紀要28号	本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。 保健衛生分野の専門教育時に生活習慣病を教育するに当たり、大学生に対し生活習慣病のイメージを調査した。その結果、「暗い」、「つらい」といった負のイメージ点数が高くなっていた。 岡田 茂, 林 宏一
18. 小学生の朝食摂取と生活習慣・健康状態との関係	共	2004年02月	ノートルダム清心女子大学紀要生活経営学・児童学・食品栄養学編28巻84?92頁	本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。 小学生の朝食習慣に焦点を当て、日常の起床・就寝時間や欠食との関係、朝食摂取時の環境等について5070人の学童を調査した。その結果、朝食欠食者は就寝時間が有意に遅いこと、朝食を毎日摂取している児童の方が欠食がある児童に比べ体調不良点数が有意に低いこと、食事を共にする家族が多いほど朝食が楽しいと考えている児童が多いこと等が明らかとなった。 林 宏一, 瀧 依果, 小山洋子, 遠藤美智子, 春名かをり, 荒井裕介, 逸見真理子
19. 大学生の生活習慣病に対する認識について	共	2003年03月	金城大学短期大学部紀要27号45?53頁	本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。 大学において生活習慣病を教育するに当たり、生活習慣病の理解度や学習意欲等に関する調査を行った。その結果、入学前から言葉としての生活習慣病の周知度は高かったが、詳細な内容に関しては理解が不十分であり、入学後の専門的な学習が重要であることが明らかとなった。また、専攻分野によっても学習意欲に差がみられており、教育活動時には専攻分野における生活習慣病の位置づけを明確に教示する必要があると考えられた。 岡田 茂, 林 宏一
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 人間ドック受診者を対象とした薬膳料理に対する意識調査について	共	2014年06月29日発表	第12回日本予防医学会学術総会プログラム・抄録集、P. 64	
2. 施設・設備の保有状況と食育実施率を用いた児童館類型化の試み	共	2013年12月08日	第12回日本栄養改善学会近畿支部学術総会講演要旨集、P. 40	食育未実施の児童館がおかれている現状を調査し、児童館における食育推進のための支援方策を検討することを目的に、施設・設備の保有状況面から検討した。その結果、児童館が設置されている地方公共団体の食育実施率の高低、調理設備の保有、公民館との交流の有無、食物栽培の充実度等で児童館を類型化できる可能性があることがわかった。 李 麻有, 田路千尋, 大滝直人, 林 宏一, 大西孝司
3. 日本人中高年女性の亜鉛摂取量と貧血との関連	共	2013年09月14日	栄養学雑誌(第60回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集)、第71巻第5号、P. 375	40歳以上の日本人女性の亜鉛摂取量と貧血との関連を検討した。亜鉛摂取量が推定平均必要量未満の者とそれ以上の者について貧血の者の割合を比較したところ、EAR未満の群の貧血者の割合が有意に高かった。年齢、BMIおよび閉経の有無で調整したオッズ比は2.55であり、亜鉛摂取量の不足と貧血との関連がみられた。
4. 薬膳カレーからのウコン主成分であるクルクミン測定法の改良と効能効果の検証	共	2013年09月13日	栄養学雑誌(第60回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集)、第71巻第5号、P. 295	ウコンを料理(薬膳カレー)として摂取した場合、代謝促進作用といった漢方薬と同様な効能効果が期待できるか否かを検討した。その結果、薬膳カレー摂取後の身体状況は、前述の作用を有する既知の漢方薬が示す効能を表したレーダーグラフの形状と一致することが明らかとなった。今回の献立中のクルクミン含量は一食当たり54mgから360mgであり、薬効が期待できるとされる量に相当するものであった。 大西孝司, 逸見真理子, 井上里加子, 高澤卓子, 林 宏一, 野口 衛
5. 食材料把握における手づかみ法の有効性の検討	共	2013年09月13日	栄養学雑誌(第60回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集)、第71巻第5号、P. 321	本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。 簡便に食事量把握を行うツールの開発を目的とし、手づかみ法が食材料把握の指標となりうるかを検討した。手の大きさと1つかみ量の間に正の相関が見られ、個々の体位に合った食材料の計測に手づかみ法が利用できる可能性が示唆された。一方で、食材料の種類や切り方によって測定結果にばらつきが見られることから、今後のさらなる検討が必要である。 藤本理那, 北村真理, 伊豫田奈津子, 竹村友美, 蓬田健太郎, 林 宏一
6. 食育実施率から検討する児童館における食育推進の要因	共	2013年09月13日	栄養学雑誌(第60回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集)、第71巻第	本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。 食育未実施の児童館がおかれている現状を調査し、食育実施の可能性を探るとともに、食育推進のための支援方策を検討することを目的とした。その結果

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
7. 人口統計学的に特徴のあるH県内2市の次世代育成支援事業の比較検討	共	2013年06月23日	第11回日本予防医学学会学術総会プログラム・抄録集、P. 49	5号、P. 288 、児童館での食育実施率が高い都道府県では、外部団体との連携が強いことが明らかとなった。児童館と外部団体との連携を積極的に推進することで、今後さらなる食育の進展が望まれると考えられた。李 麻有、田路千尋、大滝直人、林 宏一、大西孝司 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
8. 地方公共団体の区分と児童館における食育活動との関係	共	2013年06月23日	第11回日本予防医学学会学術総会プログラム・抄録集、P. 42	推計人口が減少に転じ、少子高齢化の進行が著しい大都市近郊部に位置するK市と都市部から離れたA市の2市における次世代育成支援事業を比較検討した。年間出生数は、K市約1,200人、A市約240人である。K市では地域で子育てを行う体制を整える事業が多いのに対し、A市では個別対応による支援策が多かった。育児不安を抱えている母親の割合は2市ともに約5割であり、ほぼ共通する悩みであった。このように、市がおかれている立地状況によって施策に特徴はあるものの母親が求めている支援内容に変わりは認められなかった。三浦千佳、李 麻有、岡崎由希子、田路千尋、大滝直人、林 宏一 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
9. 企業健診受診者を対象とした4カ年における生活習慣等の追跡調査結果について	共	2013年06月23日	第11回日本予防医学学会学術総会プログラム・抄録集、P. 38	児童館がおかれている地方公共団体の区分によって、食育実施状況や外部団体との連携状況に差が認められるのか検討することを目的とした。その結果、児童館主催による食育の実施率は、特別区が政令指定都市、中核市・特例市、市町村に比べ高値を示した。さらに、特別区は外部団体との連携が強いことが示唆され、地域社会を挙げての協働の重要性が明らかとなった。李 麻有、田路千尋、大滝直人、林 宏一、大西孝司 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
10. 地方公共団体による栄養指導実施状況の人口統計学的検討	共	2013年06月23日	第11回日本予防医学学会学術総会プログラム・抄録集、P. 50	日常の食習慣を含む生活習慣が身体に対して及ぼす影響を把握するため、企業健診受診者を4年間追跡し、食習慣、生活習慣と臨床検査データとの関連性を検討した。その結果、年齢の上昇にともなう良好な食習慣を心がけようとしている者が増加すること、LDL-Chol値、HbA1c値において、良好な食習慣を有すると考えられる群では、正常者が年々増加する傾向を示していた。今後、さらに例数を増やし、長期間にわたる観察をおこなう必要がある。大西孝司、高澤卓子、逸見真理子、井上里加子、林 宏一 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
11. 地域における児童館の食育展開の支援方法に関する検討	共	2012年9月14日	栄養学雑誌(第59回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集)、第70巻第5号、P. 334	全国の保健所、市区町村において実施されている栄養指導の被指導者数、管理栄養士・栄養士数等と地方公共団体の人口との関連を分析した。その結果、人口と栄養指導被指導延人数、管理栄養士・栄養士数等との間で強い相関が認められた。一方で、都道府県単位での分析では格差が認められることから、今後地方公共団体がおかれている環境や栄養指導体制をさらに分析検討していく必要がある。廣末裕希、三浦千佳、李 麻有、田路千尋、大滝直人、林 宏一 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
12. ウコンを用いた薬膳カレーの効能効果の評価および薬膳からのウコン主成分の確認	共	2012年9月14日	栄養学雑誌(第59回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集)、第70巻第5号、P. 381	食育未実施の児童館がおかれている現状を調査し、食育実施の可能性を探るとともに、食育推進のための支援方策を検討することを目的とした。その結果、現状として食育未実施ではあるが将来の実施を希望する館も多く存在し、食育の場として児童館は重要な施設であることが示唆された。スタッフは食育に対する意識が高く、食育に関する情報や研修の機会等を求めており、地域社会を挙げての支援の必要性が明らかとなった。椎名玲子、大滝直人、田路千尋、本間淑恵、林 宏一、大西孝司 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
13. 現代病等に対する薬膳の効能効果の評価および薬膳からの生姜主成分の確認	共	2012年9月14日	栄養学雑誌(第59回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集)、第70巻第	ウコンを料理(薬膳カレー)として摂取した場合、代謝促進作用といった漢方薬と同様な効能効果が期待できるか否かを検討した。その結果、薬膳カレー摂取後の身体状況は、前述の作用を有する既知の漢方薬が示す効能を表したレーダーグラフの形状と一致することが明らかとなった。しかし、今回の献立中のクルクミン含量は一食当たり1mg程度であり、薬効が期待できる量には大きく及ばなかったため、メニューの改良を進めることとしている。高澤卓子、大西孝司、逸見真理子、井上里加子、林 宏一、野口 衛 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
13. 現代病等に対する薬膳の効能効果の評価および薬膳からの生姜主成分の確認	共	2012年9月14日	栄養学雑誌(第59回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集)、第70巻第	現代人によく見られる疲れ目、冷え性、腰痛、貧血に効果があると考えられる薬膳を数種類作製し、効能効果を検討した。既存の漢方薬と薬膳を比較し、

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
14. 中高年女性における1日間秤量法によるヨウ素、セレン、クロム、モリブデンおよびビオチンの摂取状況	共	2012年9月14日	5号、P. 380 栄養学雑誌(第59回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集)、第70巻第5号、P. 352	効能を表すレーダーグラフとパターンが一致するものは、疲れ目、冷え性、腰痛であった。貧血のパターンと一致する薬膳はなかった。今後はさらに薬膳の献立を改良し、漢方薬と同様な効果が期待されるメニューを考案することとしている。 大西孝司、逸見眞理子、井上里加子、高澤卓子、林 宏一、野口 衛 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
15. 児の精神的健康に関連する食行動の疫学研究	共	2012年8月26日	第22回体力・栄養・免疫学会大会プログラム・抄録集、P. 50	日本食品標準成分表2010を用いて中高年女性のヨウ素、セレン、クロム、モリブデンおよびビオチンの摂取量について検討を行った。その結果、EARから推定したこれら栄養素の摂取量評価では、ヨウ素およびクロムに摂取不足の傾向がみられた。今回の検討によって、1日間調査であること、食品標準成分表への収載食品数の問題、調理方法別による成分含有量データベースの未整備等、検討しなければならない課題が明らかとなった。 大滝直人、秋山聡子、田路千尋、中谷弥栄子、林 宏一、君羅 満 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
16. 小学校低学年における嗜好アンケートを活用した食育の取り組み	共	2012年12月2日	第11回日本栄養改善学会近畿支部学術総会講演集、P. 47	自閉症に特徴的な問題の1つである「こだわり・興味の偏り」は、食の選択の偏りにもつながることが懸念される。そこで、幼児を対象に児の精神的な健康状態と食行動の関連について調査した。その結果、ASQ得点高値群において「1つの食品のみ食べる」、「食事の際に座ってられない」に有意差が見られ(p<0.05)、幼児期の食育を行う際に、精神的健康の情報を加味することが重要であると示唆された。 柴田亜樹、人見嘉哲、神林康弘、日比野由利、朝倉大貴、三苦純子、山崎政美、大滝直人、林 宏一、大西孝司、相良多喜子、中村裕之 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
17. 地域保健・健康増進事業報告から見た兵庫県内市町における栄養指導状況について	共	2012年12月2日	第11回日本栄養改善学会近畿支部学術総会講演集、P. 46	食育を効果的に行うためには、児童の実態に合った計画立案が不可欠である。児童の嗜好調査結果の分析を通して見出した課題を基に、小学校低学年を対象とした食育を企画した。嫌いな食べ物がある児童は7割を超え、具体的な食品は多種多様であったが、総じて野菜を嫌う児童が多かった。低学年児童は自身で食の選択、購入、調理をすることは無いため、保護者も参加するオープンスクールを活用し食育活動を実践し、高評価を得た。 本間淑恵、宮崎美穂子、塩津順子、岩井恵津子、林 宏一 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
18. 手づかみ法の有効性の検討	共	2012年12月2日	第11回日本栄養改善学会近畿支部学術総会講演集、P. 63	健康増進法公布から10年を経過した兵庫県内市町の栄養指導実施状況と地域人口、行政栄養士数との関連性を地理情報的に分析、検討した。その結果、地域人口と栄養指導件数との間、人口10万人当たりの栄養指導件数と常勤管理栄養士・栄養士数との間に正の相関関係がみられた。住民サービスの向上と安定化には非常勤スタッフの協力が不可欠であるが、地勢的に非常勤管理栄養士・栄養士を確保できない市町の存在も示唆された。 李 麻有、大滝直人、田路千尋、林 宏一 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
19. 兵庫県相生市における食の安全・安心面から取り組む食育の推進と事業評価	共	2012年11月25日	第10回日本予防医学学会学術総会プログラム・抄録集、P. 64	調理をする際に利用する「つかみ取り」に着目し、成人女性の手の大きさとつかみ取れる食材の量との関係を分析し、栄養教育現場での実用化に向けた基礎資料を得ることを目的とした。手の大きさとつかみ取り量との間には、正の相関関係が見られた。飯については一つかみが約150gとわかったが、野菜についてはその切り方によって測定結果にばらつきが見られることが明らかとなった。 藤本理那、北村真理、伊豫田奈津子、越智沙織、蓬田健太郎、林 宏一 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
20. 企業健診者を対象とした食習慣と生活習慣ならびに臨床データとの関連性について	共	2012年11月25日	第10回日本予防医学学会学術総会プログラム・抄録集、P. 51	相生市食育推進計画において5つの柱の一つと位置づけられている「地産地消の推進と食の安全安心の確保」に視点を当て、住民意識の現状、行政の取り組みについて検討した。住民が食品を購入する際に最も重視するものとして、若年層では価格、年齢が上がるにしたがって産地や品質、安全性が選ばれている。行政もこの点を重視し、住民への適正な価格による食の安全安心の提供としての地産地消を積極的に推進していることが明らかとなった。 李 麻有、三木由紀、田路千尋、大滝直人、林 宏一 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
21. 代謝促進作用等を有する薬膳の効能効果の評価および薬膳からのウコン主成分の確認	共	2012年11月25日	第10回日本予防医学学会学術総会プログラム・抄録集、P.63	属性、臨床検査データとの関連性を検討した。その結果、年齢の上昇にともなう良好な食習慣を心がけようとしている者が増加すること、食習慣・生活習慣の高得点者には飲酒習慣が無いこと等が明らかとなった。臨床検査各値との間には明確な関連性が認められず、その原因を検討していくこととしている。 高澤卓子、大西孝司、逸見眞理子、井上里加子、林 宏一 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
22. 幼児期の精神健康と関連する食生活および食行動について	共	2012年11月25日	第10回日本予防医学学会学術総会プログラム・抄録集、P.67	ウコンを料理（薬膳カレー）として摂取した場合、冷え症改善や新陳代謝促進作用といった漢方薬と同様な効能効果が期待できるか否かを検討した。その結果、薬膳カレー摂取後の身体状況は、前述の作用を有するとされる桂皮湯、桂皮人参等が示す効能を表したレーダーグラフの形状と一致すること、添加ウコン中の主成分クルクミンのほぼ全量が薬膳カレーに移行していることから、漢方薬と同様な効能効果が期待されることが明らかとなった。 大西孝司、高澤卓子、逸見眞理子、井上里加子、林 宏一、畑田昌輝、山崎 仁、野口 衛 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
23. 幼児期のこころの健康に関連する生活環境および行動因子に関する疫学	共	2012年03月	第82回日本衛生学会学術総会	軽微な発達障害の傾向を捉えて、より早期の発見につながる新たな指標を構築する目的で、発達障害の傾向と関連する生活環境因子と食行動に現れる特徴について検討した。主成分分析の結果、ASQ得点高得点群では「1つの食品のみ食べる」が抽出され、「こだわり行動」を示すASQ下位項目とも有意な関連が認められた。児の食行動の問題と精神健康度との間に密接な関連性があることが示唆され、食生活行動の把握が発達障害の早期発見につながる可能性がある。 柴田亜樹、人見嘉哲、日比野由利、神林康弘、朝倉大貴、山崎政美、三苫純子、林 宏一、大滝直人、大西孝司、相良多喜子、中村裕之 本人担当部分は研究全般に渡るため、抽出不可能。
24. 地域における食育推進支援にかかる児童厚生員の要因と児童館の類型化	共	2011年11月	第9回日本予防医学学会学術総会	柴田亜樹・人見嘉哲・林 宏一・神林康弘・日比野由利・相良多喜子・三邊義雄・中村裕之 自閉症傾向児の生活環境およびアレルギー疾患との関連を明らかにし、自閉症傾向児の早期発見のための指標を構築する目的で研究したものである。鼻アレルギー疾患および自閉症の障害である「独特の興味・こだわり行動」の特徴において関連が示唆された。
25. 青年期女性の食事パターンと摂食障害リスクとの関連について	共	2011年11月	第9回日本予防医学学会学術総会	椎名玲子、本間淑恵、林千尋、田路千尋、大滝直人、林宏一、大西孝司 地域における食育をより一層推進するため、児童館の専門職員である児童厚生員が持つ要因から児童館の類型化を試みた。因子分析の結果、5つの因子が抽出され、この抽出された因子が持つ特長によって食育に着目した児童館の類型化が可能であることが示唆された。
26. 能登半島地震による高齢者の長期的な健康被害？仮設住居入居期間と精神的影響や生活？	共	2011年11月	第9回日本予防医学学会学術総会	大滝直人、田路千尋、柴田亜樹、人見嘉哲、神林康弘、日比野由利、相良多喜子、中村裕之、林宏一 摂食障害傾向を示す者の食生活上の問題点を明らかにすることを目的に、摂食障害傾向のある者の食事パターンおよび栄養素摂取状況について検討した。その結果、摂食障害傾向がある者は菓子類の摂取が多く、主食離れのある食事パターンを持つこと等が明らかとなった。
27. 能登半島地震による高齢者の長期的な健康被害？仮設住居入居期間と精神的影響や生活？	共	2011年11月	第9回日本予防医学学会学術総会	神林康弘・田中純一・村田隆史・大滝直人・柴田亜樹・林 宏一・久保良美・人見嘉哲・日比野由利・中村裕之 震災による長期のストレス状態を検討する目的で能登半島地震発生後29か月の被災高齢者を対象に、仮設住宅入居期間と地震による長期的な精神的影響との関連を研究した。その結果、仮設住宅入居期間が長期にわたる群では、精神的影響が強いことが明らかとなった。
28. 人間ドック受診者を対象とした健康食品に対する意識調査について	共	2011年11月	第9回日本予防医学学会学術総会	高澤卓子、大西孝司、逸見眞理子、井上里加子、村上沙緒莉、林宏一、岡田茂 人間ドック受診の中高齢者と大学生のそれぞれが持つ健康食品に対する意識を調査し、世代間による相違が認められるか否かを検討した。その結果、人間ドック受診者よりも大学生の方が健康食品に興味を示していること、世代間で健康食品を利用する目的、興味の対象が異なることが明らかとなった。
28. 渡航生殖に関する医師・患者の意識調査	共	2011年11月	第9回日本予防医学学会学術総会	日比野由利、今井竜也、島菌洋介、神林康弘、人見嘉哲、柴田亜樹、大滝直人、林宏一、中村裕之

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
29. 幼児期のこころの健康に関連する生活環境及びアレルギー疾患に関する疫学	共	2011年11月	第9回日本予防医学会学術総会	渡航生殖に関する国内の不妊当事者と不妊治療を提供する医師の意識を知り、わが国における生殖補助医療に関する今後の制度設計に生かすため調査を行った。その結果、医師の意見として海外渡航による卵子提供を受けるよりも、国内法を整備し国内で実施することが望ましいと考えている者が多いこと等が明らかとなった。
30. 薬膳の効能・効果に関する研究および薬膳からの生姜主成分の確認	共	2011年11月	第9回日本予防医学会学術総会	大西孝司, 逸見真理子, 井上里加子, 村上沙緒莉, 高澤卓子, 林宏一, 野口衛 腰痛、疲れ目、貧血、冷え性といった現代人に良く見られる症状を改善することが期待できる生姜を用いた薬膳について、漢方薬の効能効果と同じような効果を期待できるか検討した。その結果、腰痛、疲れ目、冷え性においては既存の漢方薬と同じようなパターンを示すことなどが確認された。
31. 地域における児童館の食育活動と社会資源との連携	共	2011年11月	第58回日本学校保健学会	椎名玲子, 本間淑恵, 林千尋, 田路千尋, 大滝直人, 林宏一, 大西孝司 児童館を活用した食育推進を図るため、児童館における食育実施状況、食育指導テーマ、指導者に期待される役割等を調査した。その結果、児童館のスタッフは児童の日常生活に密着したテーマで指導を実施しており、他職種が専門とする分野での指導が少ないことが明らかとなった。地域に存在する他分野を専門とする指導者と連携することが、児童館での食育を推進させることにつながると考えられた。
32. 地域社会資源との連携による児童館を活用した食育推進の可能性	共	2011年10月	第70回日本公衆衛生学会総会	椎名玲子, 田路千尋, 大滝直人, 林宏一, 大西孝司 地域社会資源との連携による児童館を活用した食育推進の可能性を探る目的で、児童館が地域に期待する内容について調査した。食育実施を希望する児童館は、実施のための予算、食に関する専門家（団体）の支援について、特に希望していた。この結果から、同一地域に存在する保健所、市町村保健センター、食生活改善推進員団体等との連携を図ることが食育推進に直結すると考えられた。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
	日本公衆衛生学会 日本栄養・食糧学会 日本栄養改善学会 日本衛生学会 日本小児保健協会 日本予防医学会 体力・栄養・免疫学会 日本民族衛生学会 日本学校保健学会 日本疫学会